

紅毛天地二圖贅說

103

380

Kodak Gray Scale



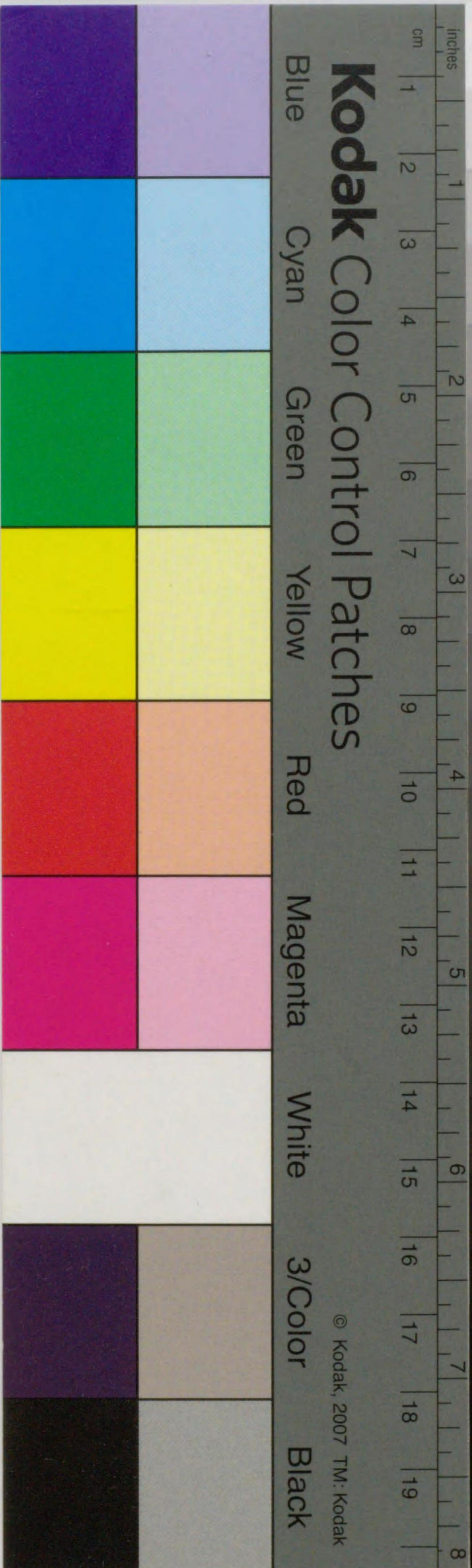
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



紅毛天地二圖贅說

近年洋學に關する史料の蒐集盛に行はれ之が爲に
洋文物東漸の事跡益明晰となれるは學界の爲に欣

べき現象なりとす然るに斯時に當り北島見信の「紅毛

天地二圖贅說の如きが埋没して研究者の一顧に浴す

る能はざるは恠に遺憾に禁へざる所とす想ふに斯る

好著の忘却せらるる所以は全く其書の現存するもの

極めて尠きに因るならん歟顯著なる文庫の目錄にも

將有名なる藏書家の架上にも之を見出すこと能はず

予の知る所にては僅に東北及び京都の兩帝國大學圖



書館に各一部を有するのみ。而して京都大學本は故北澤正誠の舊藏本にして、東北大學本は狩野亨吉博士の文庫より出でたるものとす。共に其體裁全く同じく、亦共に上中の二卷のみにて下卷を闕く。而して東北本には左の奥書あり。

紅毛天地圖上中卷二本以司天監天文生山路口家藏
秘本謄寫尋一校畢

寶曆十三年癸未正月上元日

之に據れば本書は其撰述の元文二三年より二十五年目に當る寶曆の末に、既に下卷を闕き居れが、或は當

初より下卷の稿を脱せずして止みたるかと思はるるなり。若夫脱稿せしものとせば孰れよりか之を發見して以て完璧たらしめん事、學問の爲切に望む所なりとす。由來本書は蘭國より船載進獻したる天地二圖、即ち星圖と地圖とを解説したるものにして、先づ星辰の名と地名との音譯を主とし、更に其註解に及び、又往往地名の考證にも出入せり。原圖は西紀一七〇〇年和蘭國府に於ける出版にして、天文士揺俺企斯保柳斯の編纂、溪刺兒都華爾古の鏤刻なりと云ふ。前者は名高き獨

國生北の天文學者にして、一六〇一年より一六八七年
まで在世し、蘭國ライデンに學習し、遂に一家を成し、一
六六四年倫敦の王立學會員となりし Johannes Jansz
Jansson にして、後者は Gerardus Hondius といふ彫
刻師なるべし。凡例に依れば本解説書の外に、別に右の原圖に依り
て翻譯對註を加へたる新製の二圖ありて、本書の原本
と共に幕府の書庫か、或は長崎奉行の文庫に納りてあ
りしは必然なるも、今や内閣文庫にも之を見ず。是れ大
譯者北島見信の經歷は之を詳かにする能はず。唯長

崎奉行所に勤めし學者たることを知り得るのみ。長崎
年表に依ると、延享二年己丑十一月北島見信を新に天
文方とし、毎年銀二十枚を給すとあり。是れ江戸の天文
臺に採用せらるるに非ずして、恐らくは長崎鎮府に於
て天文の稽查に従事せしことを云ふなるべし。二圖贅
説を讀むに、羅旬語と和蘭語との一端に通せし人なる
が如きも、亦譯官の助力を要せしが如し。解説中、往往紅
毛書云々との引用を爲し、又凡例にも紅毛國撰述諸圖
録を參照せし旨を記せるが、書名の揭示なきは惜むべ
きこととす。二卷の内、五卷の星圖雜考は、其の

本書上中二卷の内、上卷の星圖解説は極めて簡単に
して、洋字を以て星の名を記し、其右側に唐音にて音譯
を施し、且之に振假名を附せるに止る。卷末に元文二年
十一月十四日に着手し、十二月二十一日に訖り、其旨を
識し、地圖の對註は未完なるにより、他日を期して星出
すべしとあり。中卷の地名解説部は何年に成りしを
知らずと雖も、亞細亞の部分より外に存せざるは、隔靴搔
痒の感なきに非ず。體裁は星圖對註と大差なしと雖も、
これには編者の主張及考證ありて、其學識の程をも了
得するの快あり。而して本書の特色も亦茲に在りとす。

逸莫洋字を掲げて、其羅匈讀と和蘭讀とを區別し、發音
を正して、凡と工との差を註したる點は最も注意すべ
き價值ありとす。本書の成りし元文二三年頃は新井白石の采覽異言
の成りし正徳三年より凡二十三年に當る。従つて本
書の地名解説は采覽異言と似たる點も亦尠からず。さ
れどこれは資料の一致より生ぜし點もあるべく、直に新
井氏の著に負ふと斷ずるは早計ならん乎。又編者毫も
采覽異言に言及せざるに見ても、予は二者の間に關係
なきを信せんとす。二書共に漢文にして註多く、其體裁

酷だ類似せるも、識見文章共に白石に比肩するに足らぬは言ふに及ばず。而も地理書の博覽に於ては北島氏は新井氏を凌駕せり。殊に注意すべきは北島氏が本書に於て日本中心主義を唱へたる一事とす。例へば我國を夏國と呼び、假名を夏字と稱へ、解説の首に日本を置き、和漢洋の圖書に依りて日本國名考を擧げ、次に亞細亞、歐羅巴等諸大洲の區別外に、更に大日本洲とも名づくべき一大洲を置くべしと云ふ一論を載せたり。即ち西洋建置大洲外新僭置一大洲説と題し、日本を中心として、北は蝦夷、靺鞨、西は朝鮮、南は琉球、臺灣、呂宋、爪哇等

の島嶼を包括する一大版圖を奄有し、之を和兒知斯爺ホルチスヤ馮多フンタフンタと稱すべしと爲し、地勢上より、歴史上より堂々立論せしは、斯る鎖國時代に於ては如何にも傑出したる大抱負と言はざるを得ず。尤も歴史上の微證、地理上の根拠は採るに足らざる點多きも、其雄大なる日本主義を懷抱せし北島氏に對しては大に之を顯彰せざるべからざることと信ず。彼れの抱負や古聖の豫言の如く、今時着々適中しつつあるは實に愉快の極に於て、彼も亦九泉の下に莞爾として瞑目せん。

世に於ては、其の如く、今時着々適中しつつあるは實に愉快の極に於て、彼も亦九泉の下に莞爾として瞑目せん。

之より先、白石には蝦夷志と南島志の二著ありて、我國南北二境の地理土俗を詳説せしむ。北島氏が大日本洲の論下に説きし野作琉球の解説の如きは甚疎略なり。其他諸地方の考證は引用書の該博なるに似ず、論斷不正確の憾みあるも、南方諸邦の考證中には近代日本人發展史の史料ともなるべきものを包含し、後世の學者往來之を引用せり。例へば山田仁左衛門の呂宋及暹羅に於ける事蹟の如きは其一なりとす。是等多くは長崎に於て、故老の傳説を採りしものなるべく、史徵としての價値に至つては疑はけしと雖も、享保時代の崎陽

のトウヂンヨンは頗る多く本書中に遺留せり。否、著者自身が鎖國以前の日本人そのままのトウヂンヨンを傳ふるもの如き觀あり。

著者は大日本洲の次に於て、亞細亞洲に屬する支那印度波斯亞刺比亞韃靼等を説き、其解説地方に依りて精粗の別あるも、考證に方つては漢史佛典に涉り、博搜を勉め入り。夫だ歐米等の他洲に及ばざるを惜むべしとなす。和漢學に秀でたる著者の學識より見れば、亞細亞に對する如き考證を他洲に悉くす能はざるは推察に難からず。従つて蘭書より得たる智識の如きも亦大

ならざるは之を豫測するに足る。是を以て本書の特色は現存の中巻に存すと假定するも、敢て大過なかるべし。此著の成りし元文年間、青木昆陽が蘭語を學び始め、野呂元文が蘭文本草書の和解を著しし前數年に於て、恰も幕府の洋學開始に稍先だつ頃にてありき。それより更に數十年前に出でし西川如見の華夷通商考(元禄八年初刻)に比すれば、二圖贅説の著は地理學書として、長崎より出でし書中最も出色の好著なりとす。通商考采覽異言、二圖贅説の三書は共に元禄享保時代の地理學上の三好著述と稱すべくして、而も獨り本書の

み埋没して、世に現はれざるは著者の爲に悲むべきことなりとす。山田久興立派の書に比し、二圖贅説は凡庸な本書名は嘉永年中の編に係る西洋學家譯述目録の中にも見ゆるが、夫より七早く天明年中の名著蘭學階梯(乾の巻、興の章下)に特筆せられたり。又大隈煥水の高島二又同郷(長崎)三北島見信ト云へル儒生アリテ翻譯天咫地ニ圖贅説ト云へル書ヲ著シテ官ニ獻ジ奉リシ由テハ此ハ皆西氏(善三郎)ノ力ニ因リテ聞ク何ト云ハ惜ムベキ人物ナリト其賤なるニ外目善文論門を以てあり。譯官より助力を受けしとすれば、それは西氏第三

代目の善三郎享保十八年口誓古元文元年誓古通詞に
任すにありずして寧ろ其親なる二代目善右衛門なら
では年代の符合せざるに、長崎通詞由緒書に徴して
明らかなりとす。

二圖贅說中或記事は近藤正齋の外蕃通書第十六冊
暹羅國書第二の條下に引かれ又大槻磐水の高足にし
て俊秀なる蘭學者殊に地理學の造詣深き山村昌永の
増譯采覽異言や印度志の中にも参考せられし所あり。
閣本暹羅國山田氏興亡記の書入にも二圖贅說を引用
せる條條散見するは亦近藤氏の手にありざるか。兎に

も角にも近藤山村の二氏が本書を利用せしことは事
實なりとす。以來久しく此書の引證を見ず。北澤氏は日
本外交史稿(明治十七年刊)に未だ之を材料に供せず。菅
沼氏の大日本商業史(明治二十一年成)には引用書目に
其名を見るのみ。

大正五年七月

文學博士 新村出

代日の善三郎重保十八年、嘗古元文元年、嘗古通詞に
 任述にあり、方はて等、其親なる二代日善右衛門全
 ては年代の符合せざることを、長崎通詞由緒書に擬して
 明のなかりとす。

二天五道、其地、近文學、新立、外、濠、母、密、于、本、冊
 其の、文、更、の、也、條、下、に、引、か、れ、又、大、概、敷、永、の、高、足、に、し
 其、分、の、大、日、本、商、事、文、人、記、の、至、至、也、の、濠、利、使、取、書、者、の
 本、林、交、支、録、而、中、外、商、民、所、未、大、多、を、保、保、の、想、其、事、也
 其、事、の、事、也、以、其、事、也、其、事、也、其、事、也、其、事、也、其、事、也
 其、事、の、事、也、其、事、也、其、事、也、其、事、也、其、事、也、其、事、也

紅毛天地二圖贅說



原圖者紅毛國所訂刻也然其星像等名固

嘗關係乎刺旬之言語所謂刺旬者歐羅吧

各國音語各異而大、約、以、之、語、雅、音、也、雖、彼、方、

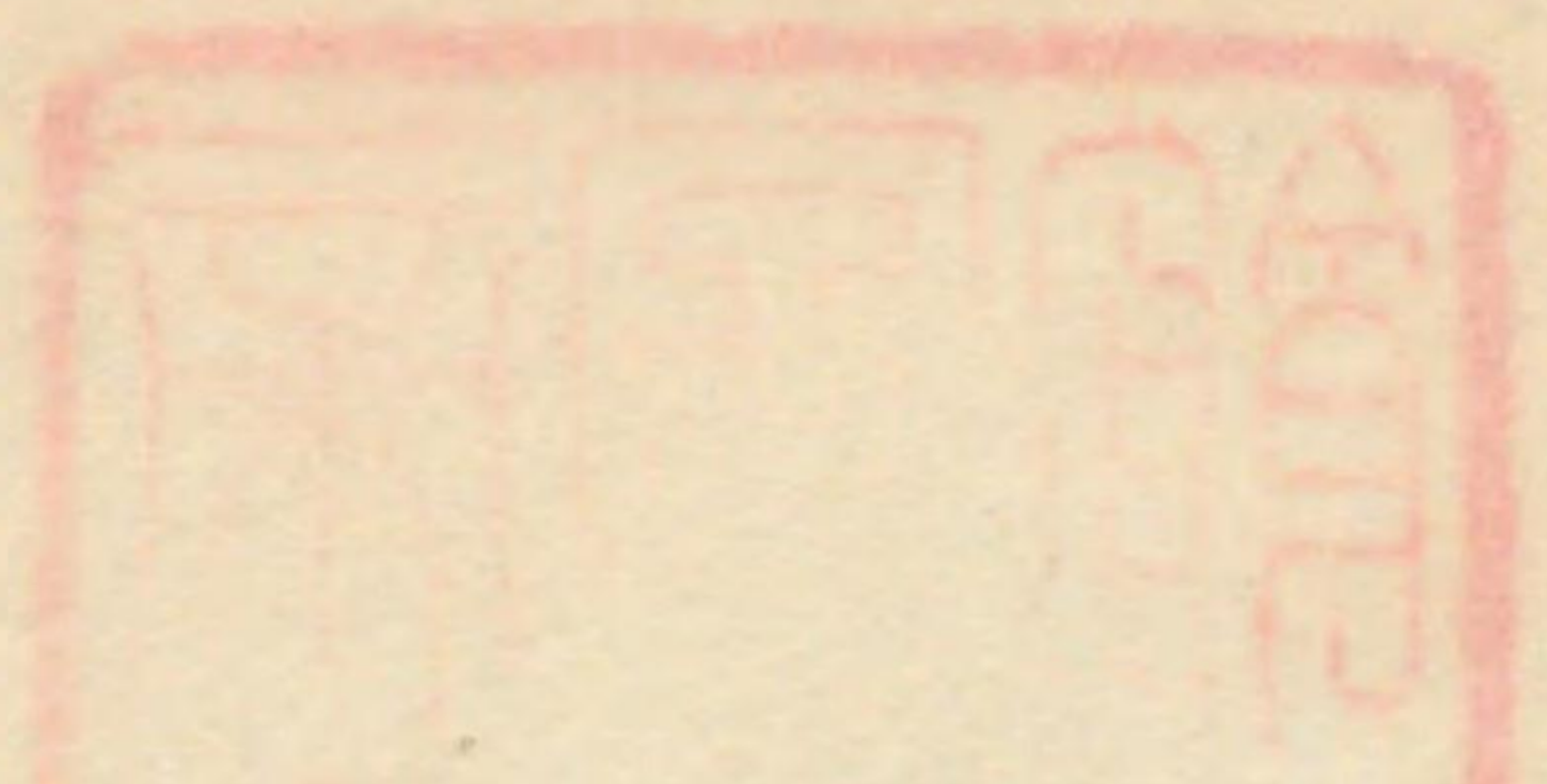
為、率、或、云、刺、旬、往、古、國、號、之、假、如、亞、哩、引、呼、

斯、或、呼、亞、哩、也、斯、即、十、二、宮、像、之、一、紅、毛、他、

鳥、兒、呼、斯、又、同、土、紅、毛、宮、不、空、譯、作、牛、宮、此、譯、類、

是也至若萬國地名則用刺旬聲音以紀各

地彌號假如四國音是海道內即夏國仙臺星
太同陸北京五省之一山東上類是也是以
奧國府北京五省之一山東上類是也是以
番字書法下即謂文字連續以俱皆從刺旬矣
而今依謂書法者皆同
官命新製平圓圖二地即天初翻之將夏字即
此土假呼以夏音土韻此而將夏音呼番語
則間有不協叶者故粗載原圖番字於下條
對註漢字於其傍猶且不叶者姑效漢人譯
梵書之例嵌稱呼于對註下以便誦讀焉



書中對註韻音皆主漳州音是即仍明萬曆
例而漳州所無者間復假借白話及外江福
州諸音也如其假諸音者乃於字傍加白話
朱圈外江綠圈福州黃圈以彰明各州音對
傍夏字皆從番字連聲故不必拘
番字原左行橫讀直似滿字讀法假如亞哩
斯彼書arias而今悉倒書猶且以直書
漢字而對註其傍者獨從此土書法
番字固有異體若漢字有數體原圖亦如此

然書中番字咸一其體假如^ハ音作^ハ四^ハ音

作^ハ音^ハ濁作^ハ類是也此土音太是以

讀番字例

凡天下韻聲生於亞^ア意^イ鳥^ウ也^エ倭音矣^ハ生即能

如歐羅吧大槩從刺^ウ旬^ウ韻^ウ音^ウ乃^ハ呼^ハ亞^ア也^ハ意^イ倭

鳥是亦能生音實協韻音法而其法稍類印

成及摩多而直數字連呼^ハ以^ハ合^ハ字^ハ重^ハ是^ハ故^ハ如

如刺鳥呼兒假鳥呼居^ハ稍^ハ短^ハ類^ハ統^ハ各^ハ地^ハ通^ハ音

矣蓋嘗出自天然無容造作也然今時之人

誦^ハ亞^ア也^ハ意^イ倭^ハ鳥^ウ獨^ハ於^ハ鳥^ウ音^ハ顛^ハ作^ハ由^ハ音^ハ呼^ハ之^ハ其

如美人礙唇呼以下連故如^ハ伯^ハ兒^ハ即^ハ亞

加州屬國與地全圖作字露一^ハ伯^ハ露^ハ墨^ハ利^ハ亞

亦彼土進^ハ多^ハ呈^ハ地^ハ圖^ハ之^ハ地^ハ名^ハ畧^ハ證^ハ之^ハ下^ハ地^ハ名^ハ即

之^ハ伯^ハ紐^ハ多^ハ伯^ハ牛^ハ羅^ハ迤^ハ西^ハ奧^ハ地^ハ國^ハ作^ハ琴^ハ牛^ハ呼

呼伯宜鳥^ハ四^ハ國^ハ南^ハ海^ハ道^ハ內^ハ四^ハ國^ハ此^ハ土^ハ呼

是哥^ハ呼^ハ短^ハ九^ハ類^ハ是^ハ果^ハ弃^ハ置^ハ能^ハ生^ハ音^ハ鳥^ハ是^ハ攝^ハ收

所生音所^ハ是^ハ之^ハ所^ハ為^ハ也^ハ而^ハ甚^ハ不^ハ諧^ハ韻^ハ音^ハ軌^ハ則

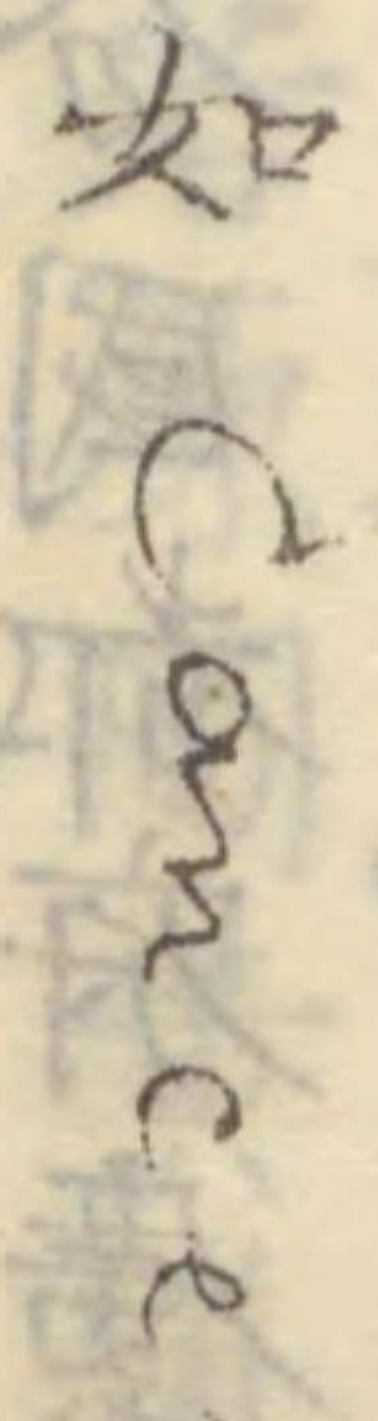
矣雖然不免乎世間相違失因是星圖初翻

大概從之所謂從之者即星圖乃至地平盤

者不然矣或因是初翻是也至如書中番字對註

叶讀故以或曰字冠其上如漢字左側夏復字

既世字讀故敢借以至若其國名類則有不
呼訛字置其上從下
所許者故今不從
按又字是音也奇沙又音也奇斯孤讀則大抵
呼斯與之字同韻孤字原音悅而從今時之
孤讀則呼奇斯雖然今擬副書以呼斯如
禮印斯直作道以北星像名原副書
虎係你斯譯曰壽鳥舊曰火鳥於
宜不類是也
穩字短音呼與也音連呼則直云西與也音

連呼則云假矣而今皆連呼也日溪是以
如  甘西兒像之十二宮呼甘溪兒
西禮瑪斯名與地圖作食力百私
呼溪禮瑪斯類今亦不從按不從類例蓋不
少然不備錄

絲書字例

原圖番字凡黑書今圖易以正間色其字樣
既以濃黃書者則黃赤道等眾線名俱同以
紺書者在星圖則天漢及座外星像
禮馬

西^七斯^二在地圖則海洋及澳湖名所謂海者南
類^七斯^二在地圖則海洋及澳湖名所謂海者南
刺^支那^等海^名洋^者西^大東^深澳^名湖^者北^必
澳^者伯^見是^五哇^刺比^五等^深澳^名湖^者北^必
高^等以^泥金^者在^星圖^則恒^星像^內孤^照星^北
湖^名以^泥金^者在^星圖^則恒^星像^內孤^照星^北
即^喜見^我一^像第^一等^星織^女南^角宿^在
禮^刺像^第一^等星^織女^南角^宿在^地圖^則五^在
大^州名^利即^亞細^亞歐^羅吧^亞非^其在^星圖^已
朱^書則^十二^宮像^黑書^則眾^星像^其在^地圖^已
已^以細^大彩^字者^則嘗^區別^各地^之廣^狹及^已
分^國都^府廣^邑如^都府^廣邑^者島^嶼之^大小^已
以便^覽畧^載一^二餘^漏島^嶼之^大小^已

凡百例

若原圖黃道上乃至地平盤面亞哩斯
他^烏兒^斯等^十二^宮像^暗番^字不^以初^譯直^安
安^今圖^俱同^若其^黃赤^道乃^至地^平盤^面
燕^引呼^元氏^畏呼^上稍^短呼^下稍^引等^數目^略
略^番字^總再^譯以^漢字^備入^今圖^也
地^圖夏^字各^散漢^異處^者正^剖分^各界^是亦^亦
做^乎原^圖矣^雖然^連呼^不便^因是^將以^分
起^止假^如印^帝麻^卧哩^斯漸^伯滋

類圖面之散書是也
如星圖地平盤面第十六層數目番字凡皆
不載今圖而易以第十七層十二月名
初者其格內狹隘無容譯文處故也至如十
七層以其格內素故復載彼略語月名實而
按地圖地平盤面第十六層細番字疑係乎
彼土日者流事歟是亦無格內安初譯處故
復不載

若星圖波攬形面第二層左右文圈即區各
星大小之符票內面番字即紀其等第也故
再翻以收入
若二圖所載華圓圍等之形內番字原刺句
之言語而最有難解者故不譯姑素於其形
內姑不開

若所製天地二球全圖天經環量時環類獨
初譯其名
若彼土進星銀規比例尺等測器亦同

如副書件件條目且關於三圖翻譯無暇以
譯之

若初翻參過諸圖籍目國大約紅毛者事係於
繁故不開列

竊按原圖呈即彼所進者蓋彼土革命年方

一千七百年實當吾元而有天文士擢俺

企斯係係柳斯者乃增益舊圖之遺漏改訂

畫一矣同時溪刺兒都華爾古者繼奏請經

官准梓行之和兒多毛國紅國府亞護斯得

爾地

註 出如對註音字右側夏字復又
叶詩故以或曰字冠其上其如漢
數左側夏字故其人其上下

Arivers

Takewis

他兒斯

gemini

Conce

梨米泥

時西精呼下兒

如副書件件條目且關於二圖翻譯無暇以
譯之

若初翻參過諸圖籍曰大綱紅毛者事係於
繁故不開列

竊按原圖即彼所進圖者蓋彼土革命年方

一千七百年祿庚辰年元而有天文士撒倫

全圖係保柳者乃增益舊圖之遺漏故訂

畫一交同時其初也者亦商古者其請經

陸離辨行之和免瀾多却紅國有亞護斯得

對註 重出如對註番字右側夏字復又
叶讀故以或曰字冠其上其如漢

取借以呼訛字置其上下

或曰アリ

Arivers

他鳥兒 轉舌呼以下斯

亞哩 轉舌引呼以下

gemini 十二宮

Can celo

架米泥

以下必拘其法

甜西西 稍短呼以下兒
呼力ニケル記

Leo
禮何

Leo

Libra

利無稍短刺辨舌

Libra

Sagittarius

沙乞他哩鳥斯

樓
重
出
吹
樓
香
宅
古
圖
夏
宅
對
又

Virgo
喜稍短兒我

Virgo

斯歌兒幣鳥斯

Virgo

Capricornus

加カ無無稍短哩リ果コ稍短兒ル奴ヌ斯ス

Aquarius

亞ア渦ウ哩リ鳥ウ斯ス

Pisces

昆ビ斯ス西セ斯ス

以上黃道之十二宮像名從重出對註夏字

以下必拘其法皆做之

Ursa minor

鳥兒沙稍短呼以下米光兒沙字皆同

Ursa major

鳥兒沙稍短呼以下馬搖兒沙字皆同

Draco Cepheus

大刺引轉呼歌稍短呼以下西巫稍短呼以下斯西字皆同

Cerberus

Alectryon

亞兒古多係刺斯是係河斯引呼氏斯稍短呼以下

Carion

哥短呼以下魯那河濁禮轉呼亞里斯亞里斯

Heracles - engonasi

係兒古稍短呼以下爾斯影卧斯短呼以下那是

呼ヘルキウリス訛

呼ヘルキウリス訛

lyza minor cygnus

禮唎刺 世牛奴斯

Cassiopeia

割是稍短呼以下 倭白命

perseus - aegempereus

伯兒西 烏斯 亞兒 布

aurigae - elicetaminus

亞烏哩牙 力 古多你 烏斯

perpentarius - opkischis

西兒并他 烏斯 倭 休牛 斯

serpens - optuicci

西兒并斯 倭 休是

Ja g i t t i s

沙サ乞キ他タ呼フ引リ

Cy g n i s

Ag s i l a - v a l t i n - p o l a n s

亞ア幾キ以以合合牙牙閉閉唇唇呼呼

刺チ

一一

付ツ

舟フネ

爾ニ

氏シ

兒コ

火ヒ

郎ヲ斯ス

Je l p p i n u s

氏デ濁ダク短ダン爾ニ喜キ奴ヌ斯ス

呼フテテルルヒヒニニウウスス訖シ

E g u i l e i s p e g a s s i s

也ニ牛ウシ呼フ禮レ鳥ト斯ス

伯バ牙ガ

稍シヤウ短ダン呼フ以以下下斯ス

牙ガ字ジ皆ケ同トウ斯ス

呼フ稍シヤウ短ダン斯ス

斯ス

A n d r e a m e f a

安アン都ド稍シヤウ短ダン呼フ以以下下魯ロ呼フ轉テン舌ゲ墨シ呼フ引リ大ダイ

T r i o m g u i l i s

氏シ力リ轉テン舌ゲ安アン苦ク濁ダク短ダン爾ニ謨モ馬バ由ユ稍シヤウ短ダン呼フ以以下下斯ス

呼フ力リ轉テン舌ゲ安アン苦ク濁ダク短ダン爾ニ謨モ馬バ由ユ稍シヤウ短ダン呼フ以以下下斯ス

呼フ力リ轉テン舌ゲ安アン苦ク濁ダク短ダン爾ニ謨モ馬バ由ユ稍シヤウ短ダン呼フ以以下下斯ス

呼フ力リ轉テン舌ゲ安アン苦ク濁ダク短ダン爾ニ謨モ馬バ由ユ稍シヤウ短ダン呼フ以以下下斯ス

呼フ力リ轉テン舌ゲ安アン苦ク濁ダク短ダン爾ニ謨モ馬バ由ユ稍シヤウ短ダン呼フ以以下下斯ス

呼フ力リ轉テン舌ゲ安アン苦ク濁ダク短ダン爾ニ謨モ馬バ由ユ稍シヤウ短ダン呼フ以以下下斯ス

右座內二十一像及以下座外四像者當時彼土之所測定黃道以北星像名矣故新舊星圖共載所謂新者彼所進呈星圖以下謂新圖者皆準之

Comes Yelrebe

假企稍短呼以下斯火那趾是

Chia

假呼少引刺

peder

Coma borencices

哥馬何禮泥斯

Algol

亞爾我爾稍短呼以下

右座外四像

按新圖以假企斯火那趾是像已收乎座內故重出下條以實新增之數也

Traian gulem

及 minor

外四像者當

氏

カリ辨告

安苦濁短

爾濁短

米老稍短呼以下

兒老字皆同

呼テリアニキユムノル訛

Musca

謨斯假

呼ムユスカ訛

Came lopardalis

假墨魯吧兒大爾斯

呼カメロハルターリユス訛

dyink

deominor

禮印斯

呼レイニキス訛

禮呼少引何米老兒

Canes - Henatici

假企斯

火那趾

是

Mons - Maradus

孟斯

禡稍短呼以下

那呼少引爾斯

像者當吾

呼モニスマナリユス訛

此星像名矣

Carpentius Lem - minor
西兒伯兒斯
呼セルベリウス訛

Serulium - Nobilissimum

斯古引力謨
素稍短呼以下
素字皆同必是亞奴謨
呼ソビツレアーニウム訛

Antinoris adalif

安趾短呼以下
趾字皆同老鳥斯

Antinoris adalif

Philippicula

富稍短呼以下
富字皆同爾伯古刺
呼ヒクルキウラ訛

Laecerta
Styllia

刺西兒大短呼以下
大字皆同是係斯的哩阿

右座内十二像及下座外一像者當吾

元禄十三年庚辰彼土之學士揺俺企斯

係係柳斯所新增之黃道以北星像名矣

故於舊圖未曾有所見並以此星數為矣
或曰此星三羊或承蛇土之學士結於金旗
安斯兒
十二卷及下卷於一卷皆當吾

右座外一像
以上黃道以北星像計三十七

Dei pbeccego

Cetus
西氏鳥斯

Orion
倭理旺

Erifanus - Flupius
也哩他奴斯
富爾喜鳥斯

Lepris
Canis - Major

禮
布
斯
假
你斯
馬
搖
兒

Camis - minor
假你斯 - 未老兒

Argo

Hydra

亞兒我

攜太刺呼

Crater

Corpius

假刺引呼氏兒

歌兒喜烏斯

Ventaurinif

星他烏兒斯
呼_{セン}他_ウ兒_ル斯
呼_{セン}各_ウ兒_ル斯
訛

Lepra

Area

禮少引布
呼_レ少_引布_ス
呼_レヒ_ス訛

亞少引刺呼
亞_ア呼_少引_刺呼_ス
呼_レ轉_舌

Corona - Quis tradis male

哥魯那 - 亞烏斯他刺呼轉舌利
哥_コ魯_ロ那_ナ - 亞_ア烏_ウ斯_ス他_タ刺_チ呼_フ轉_テ舌_ケ利_リ
利_リ稍_シ短_ト呼_フ以_テ下_ニ斯_ス
利_リ字_ジ皆_ケ同_シ

Piscer - Notivus
昆斯西斯 老
趾烏斯

Phanik
Rydivus

係引你斯 橋
氏濁短兒斯

Dozad
Colimba

度下濁刺呼轉舌度
哥爾謨夏
呼コリウムパ訛

Misica
謨斯假
呼ミニユスカ訛
Zomve
像者當時

Piscey - Polans
昆斯西斯 何藍斯

Trian gulim - Aistrade

氏力呼轉舌安苦呼濁短爾謨
亞烏斯都刺呼轉舌利

Apres
 亞伯斯
 Ralos
 巴何
呼イリウス
呼イリウス

Indus
 印度斯
 呼イリウス
 呼イリウス
 呼イリウス
呼イリウス
呼イリウス

Joucan
 都烏
 Chamelion
 假墨力旺

右座内二十八像及下座外一像者當時之所測定黃道以南星像名矣故新舊共載坐内二將及下座外一像昔也科中疎

西棋堂其
 古柳斯
 呼イリウス
 右座外一像
呼イリウス
呼イリウス

元文二年歲次丁巳十二月甲辰值日

Monoceros

摩老西路呼斯

Sektanj - Ilamir

西斯堂斯

呼セキスタント訛

烏刺呼你爺

右座內二像及下座外一像者乃係予新圖之增益黃道二十八宿及下座外一宿皆當報

Robur - Caradilim

羅轉舌布兒一假羅轉舌力奴謨

呼ローヒラルカロリニム訛

右座外一像

以上黃道以南星像計三十三

總計八十一像別有白氣二像

本年十一月十四日始初翻至同十二月三

十一日訖焉

元文二年歲次丁巳十二月甲辰值日

天文二年庚子丁巳十二月甲辰日

本若其地圖對註猶未完備須他日成後謹

進 言八十一卷

呈 必且黃道以南南星

西新 必且黃道以南南星

Handwritten notes in cursive script, including the word 'Carpenter' (Carpenter) written vertically.

紅毛天地二圖贅說卷中

日本長崎鎮後學北島見信奉

旨譯

對註

Iaponesia

耶波你亞 耶波你亞 耶波你亞 耶波你亞

呼船番 呼船番 呼船番 呼船番

亦為西 亦為西 亦為西 亦為西

西洋稱我 西洋稱我 西洋稱我 西洋稱我

Handwritten notes and characters at the bottom of the page, including '支那' (China).

夏國曰 *Yayon* 熱本或曰 *Yayon* 熱板曰

Yayon 耶本曰 *Yayon* 耶板曰 *Yayonia*

耶波你亞 是西洋所稱件件名者皆謹按

夏國舊名柯爺禰多都囉亞其慈是麼

Yayonoto Jajo Akiti Jima

又曰爺禰多那古你 所謂其大和玉居那

Jama tonokami

是耶馬臺國即

謹按 爺禰多那古你即我 神代區分

此土以為八洲時之一 謹按今分為畿內

國及多所云羊馬失羅野馬多國即 是武備志

因字米因米如等八國即 是武備志

當作以多然速 人代第一

聖主撥平天下統御八洲將爺禰多那古

你畝傍 義訓假是法刺那米耶武天皇自

檀原宮 語辭土假是法刺那米耶武天皇自

皇都自後以古爺禰多遂為此土總名

皇都自後以古爺禰多遂為此土總名

也即是如彼古者周有國統支是名實萬
世常沿矣中古得漢字百濟以字爺禡多
假借好字作日本假訓呼爺禡多日本假
作耶麻騰音騰多字國。日本國有國史秘府畧
百七歲紀五等書類類。又日本國有國史秘府畧
之支那固有日本觀又別作和句大和句
大養德亦共假訓同上或以大和大養德
抑不知結繩世爺禡多之又呼阿爺禡多○
中古所云蓋取雍和之義歟。曰日本別作
多爺禡名。擅天下天皇紀。曰日本別作
和亦意由是義必非惡支那呼我以某字

更改呼者疑比我以日本義訓呼喜那麻都
短呼者疑比我以日本義訓呼喜那麻都
去訓呼子等早日本義訓呼喜那麻都
乎又準上本別作山跡山止山戶歌者義流語
等亦準上本別作山跡山止山戶歌者義流語
日本一唐書又別作山跡山止山戶歌者義流語
有此號任昉述異記日本國有金桃辨時既
是軌古人區處漢字曲設為多端類例漸
俾我事物悉為字之一端也然自彼猶不
達失音日本呼船番以後至我國名一轉
漫而不可辨西洋亦復沿襲於彼其轉至
再至三如出上件件名矣抑使忌部紀數

君子起在茲安得為之不歎息竊惟如
此土事物大抵準古事記書法則必名正
言順竟使彼眾莫有乖謬耶

日 溫 謝 訛 支 那 呼 况 加 亦 訛 武 備 志 編
向 義 訓 休 加 原 圖 作
Finnca 喜
Finnca 喜

肥 前 國 音 喜 星 喜 稍 短 呼 所 云 國

即 是 謂 之 訓 語 音 何 必 以 一 音 世 謂 之
如 其 以 一 音 者 則 既 有 漢 字 故 也 漢 字
信 之 韓 地 韓 亦 固 合 音 彼 亦 以 一 音 者
則 自 箕 子 也 箕 子 原 殷 人 因 知 若 此
土 音 韻 實 有 殷 之 音 此 殷 土 論 異 漢 若 此
吳 漢 互 異 以 下 云 國 音 者 倣 之 那 論 漢 原 圖
此 說 闕 之 喜 慎 訛 我 古 曰 火 國 議
作 文 故 泥 短 呼 訛 我 古 曰 火 國 議
上 喜 四 那 字 並 短 呼 訛 我 古 曰 火 國 議

五 島 五 菟 即 肥 前 國 所 屬

五 島 五 菟 即 肥 前 國 所 屬

Yi-cok

四國。國音是短呼。謹按南海道六國內阿

波讚岐伊豫土佐四者共接壤一區之

內故統之謂四國。南海道有紀伊淡路

阿波讚岐云云。宋書

Ypo

阿波國音短呼。支那以之呼。挨懷齊非

是也。我古作淡洲。或作栗國。訓以上並義

泥。故

Yagato

長門。義訓。字俱。稍短。呼。原圖作 *Yagato*

南牙都訛。支那呼。奴。茄。多。亦訛。我古云

穴戶。或作穴門。訓以上並義。都

Yakaki

伯耆。國音。花。奇。呼。原圖作 *Yakaki* 何

貴。短呼。訛。支。那。呼。花。計。亦訛。我古作波伯。同音

Muraco

平涼師。義訓。未。取。短呼。即山城國。

平安京是也原圖作 *Meaco* 暹亞可訛

Sangha 丹後國格音短丹格呼
自音格音短呼國音格音短呼

Caraga 加賀國音短呼加葛葛濁呼
加賀國音短呼加葛葛濁呼原圖作 *Caraga*

Sima 志摩國音是馮呼
志摩國音是馮呼二字並短呼

Edo 江戸義訓夏都下濁呼即武藏國
江府是也原圖作 *Edo* 員都引呼訛

Asa 安房國音畧稱呼
安房國音畧稱呼原圖作 *Asa* 奧

Saka 佐竹呼他國音竹義訓
佐竹呼他國音竹義訓三字並短即常陸國鄉
名原圖作 *Saka* 沙他貴稍訛

出羽出羽氏氏花花即即義義訓訓畧畧稱稱我我古古作作出出羽羽

乃呼呼意意氏氏花花今今時時呼呼氏氏花花者者略略稱稱

Aruta

秋田秋田義義訓訓亞亞奇奇他他稍稍短短呼呼即即出出羽羽國國府府原原

圖作圖作人人ArutaAruta亞亞貴貴短短呼呼他他稍稍訛訛

隱岐隱岐阿阿奇奇阿阿乃乃國國音音畧畧呼呼原原圖圖作作Aruta

阿貴阿貴短短呼呼訛訛

佐渡佐渡國國音音沙沙都都短短呼呼沙沙短短原原圖圖作作

山都山都短短呼呼稍稍濁濁訛訛三三日日官官奏奏夫夫夫夫

種島種島義義訓訓他他企企才才是是馬馬以以上上即即

大隅大隅國國所所隸隸我我古古作作多多稱稱或或作作多多概概支支

那作那作多多尼尼或或作作多多概概作作多多藝藝作作種種島島作作

種子種子作作多多概概作作多多藝藝錄錄宋宋史史兩兩朝朝平平壤壤十十

年八月年八月遣遣多多禰禰島島使使人人等等貢貢多多禰禰國國圖圖

其國其國去去京京五五千千餘餘里里居居筑筑紫紫南南海海中中本本日日

天武養老六年四月始制太宰管内大隅薩摩多祿壹岐對馬等司有闕選府官大擁補之續日天平五年六月多祿島熊毛郡大領外從十位下安志託等秋十人賜多祿後國造姓出同由是觀之則蓋古者以之立為國歟謹檢類聚三代格天長元年九月三日官奏先是既隸大隅國本國各地名號雖不在是限然

而原圖所載如斯故對註亦從之本國對註右側之夏西洋建置大洲外新僭置一大洲說

伏謂我

國威擴揚遐邦也前世

香椎聖廟

神大素良姬鎮國香椎大帶姬廟。神為仲哀姬非是鎮國香椎。神八幡大神御母氣長足姬尊廟。

皇蓋也皇也皇也神功。彼所謂神功天皇又云之

香
氣長足 八蕃菩薩 征西則韓地悉為我通 皇親 本書記此書那兵征伐韓地有 新羅始遣使來 乙酉二月二十三日 侵任那官夏六月 逆天氣長足 勞群廣愛育萬民 羅王將戮之 非次之 云々

討新羅者 彼有野素 服焉 月東蝦夷 唐書 漢書 比羅夫 六三 慎國五月 武天 至之 賜物 造島 津輕 司本 從七 位上 諸君 養先 等

六人於鞞去京一觀其風俗本統
日多賀城去鞞一里云夕去紀陸奧坪
一卅里去鞞在鴻之池為千去里
一美朝獨立之見雲真人為清書也
本邦之行嘉二令旅人國迷途也
記宋元嘉二十八年加濟新羅任御
詔除宋書則為宋順帝
如故又曰武加帝謹御按國諸軍事
濟新羅將軍和國王其表曰征自祖
安東大將軍和國王其表曰征自祖
甲冑涉山川不遑寧處東征毛人
五國西服衆夷六十六國渡平海
五國西服衆夷六十六國渡平海
日梁五國西服衆夷六十六國渡平海

昇明二年事當十雄
齊大祖建元當十雄
其非又竊以就事
五國者觀之則齊
等禮於我故當此
失禮於我故當此
至若瓜哇呂宋臺
哉。衛門在慶長初
遂有之。○呂宋國
泉人天正年中遊
所山田氏者尾張
門為奇謀果決元
商船南游暹羅國
夏國之士多山田氏亦在招士中矣時王見

子謂之曰威王皆本襲父之封云是以日本
人紀臺往乎此明其後江毛番來假其地云于日本
木源為朝公○於此荷蘭毛番和城元其地借居於日本
平流塞垣草木以琉球航於海征伐千島多後渡威
國中明遺且驅甚多南浦人又自彼慕我風
敗遂捕其王尚寧以歸我數千討琉球長十
還自是彼感戴投數朝真○明萬曆三
七年我慶長十投數朝真○明萬曆三
聲取雞籠淡水州伐琉球遂虜其王
曰日本薩摩州伐琉球遂虜其王

山田問以疆國之術最富且皆中旨王
以山田之法以國之術最富且皆中旨王
封子以名因襲父之封後復主王猶且
女子而名因襲父之封後復主王猶且
口傳而名因襲父之封後復主王猶且
少卓萃不羈有曠世之度日常好讀兵書
永初流寓本數載時其女王議後鼓
而入最累以客皆四散矣國正逐北
之客最累以客皆四散矣國正逐北
百餘里有敵國曰亞華其時夏國之二
容七羅國乃率兵六萬既抵其國夏
甚恐懼廻募乃率兵六萬既抵其國夏
以奇策機駕巨砲象車將八千於國
見之敵死於兵者六千餘悉散降因是
見之敵死於兵者六千餘悉散降因是

紅毛書作以而後西
海乎術以聞之遺
昆乎斯係見之命
亞國王係且與難
器具貨財且與難
交易閣龍遂且與
上望樓中龍遂且
而取道前墨利
所抵地耶馬以
刺古巴耶馬以
有亞南墨利馬
道以紅南墨利
利加紅南墨利
此地名紅南墨
以地故紅南墨
德為者此復洲
利斯加斯者此
斯者初是也復
國者初是也復
後按者初是也
沿墨思利巴加
之亞東國通行
迴數萬里展轉
經命

輓近歐羅吧以地勢分渾地建大洲名統
領各國以謂域中大地盡矣其識實超過
他邦然而頻有罷置沿華莫嘗定簿也
土僅知有亞細亞歐羅吧利未亞三大洲
於大即地全躰中得什三餘什七悉大洲
海按置三是大公地止至百餘年前此書
明地譯自文祿元也上湖西洋華初於我
一志二百年九按元毛書作計之華即命年
明志四百年然則新舊年一今說皆俱相合
有臣名閣者紅毛書論昆意乎太里西國
生平講習一行海術畢竟三洲之氣味中
尚應有地習日海行遊西海嗅土地之氣
自有此以西必有人烟國土矣因聞諸國王
自悟謂此非海行遊西海嗅土地之氣味中
王也

細亞南亞至蘇馬答刺呂宋等東至支那
如亞南亞至蘇馬答刺呂宋等東至支那
呼區弗利加者亦有決之疑大洲者
一聲區弗利加者亦有決之疑大洲者
小亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
呼區弗利加者亦有決之疑大洲者
一聲區弗利加者亦有決之疑大洲者
小亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
呼區弗利加者亦有決之疑大洲者
一聲區弗利加者亦有決之疑大洲者
小亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利
亞者利在二亞獨嘗係國名然而地亞圖墨利華利

按如國毛曰第全與北極者大亞曰又五洲上瓦辛
以故膏温三國地邊出也洲墨亞曰而記地臘歲
墨姑按迷曰又典地又利細以域大尼忽
瓦以如近亞曰大其曰加亞地中又加得
臘之第替弗第小畏如曰曰勢大曰洲一
泥名五未此利一爪未墨墨利分地最尼紅大
加之名決款加曰哇審瓦瓦朱與盡後亞毛地
為是者定之第歐及何臘臘亞地矣得國書故
大有於以稅四羅墨如尼泥曰為大明墨臣作亦
洲五紅南都曰吧瓦故加加北六地文瓦名後取
之大毛方良亞第蠟未者分三亞大置為臘馬經其
一洲地地都墨二泥敢在大木墨洲土抄尼瓦八名
者名國界方此利曰峽訂南地國利曰洲按加臘年命
蓋者初未洲沃加亞為之惟建繪加政者即洲扭以之
西。審。云第細境惟見置按曰羅也是為斯西呼
土竊何紅南五亞也其南六即南吧第以巴墨

日本者則亦焉從之何則如亞細亞區域
者南至麻刺加東至支那至如西北二方
曾仍舊舊說云如亞細亞者東北至新
及北海稱新那花西河
之墨何的湖此大乃河
境西國北首呼馬
禮地哩沙下西大馬禮尼西古見
西紅海即西國所謂馬禮尼西古見
其地勢自然最非人所能也蓋竊惟我
本國至迤南蘇馬答刺和蘭得亞那花正
南那花魏企亞等地則各地難散處自別

有成一大洲地勢非亞細亞所屬最分明
矣繇是敢新僭置一大洲稱以和兒知斯
爺禡多 *For the Japans* 者其意特主

本國將各地屬焉有若夫三韓野素靺鞨

固嘗亞細亞所屬雖然皆共附我版圖

則奈何為之他然則若此洲所屬者西至

韓地靺鞨北至野素等處日本古和國云

十餘新羅百濟莫非屬國云其屬國有五

既仍以和為大國錄曰本致如迤南正南則

和蘭得亞那花等地是也

正南者即那花魏而又以和兒知斯為此
 企亞等地是也
 大洲首稱者竊是取諸國
 國威也和兒知斯西土雅語
 譯云威德
 固嘗亞略亞所屬然皆共知也
 本國雜谷此屬焉夫夫三韓理素樺薛
 命蘇之
 矣竊是雅祿替置一大依蘇以味兒味
 首為一大依此屬非亞略亞所屬景公即

野素二短字並呼即蝦夷原圖作 *Yesso* 野山
 引野稍又他圖作 *Yesso* 悅素或作 *Yesso*
 負素共訛一圖作 *Yesso* 野素
Meatsmay
 禍此麻野四短字並呼即松前原圖及他圖作
 者恐非是 禍止埋又以為野素以北
Mergecampy
 未禮加業亦

巴刺畢子呼巴刺轉二字並短呼

波兒都蘭都兒轉呼

安知花此字並呼

沙爾母埋餘並短呼

可禮亞稍短呼即高麗轉聲也謹按我山
明德三年值明洪武彼亦復古名號朝

爾鮮此字並呼

琉球按西洋諸地圖既雖有七島總

名而云琉球者無馬原圖亦然近此檢

一圖藏其家即作禮畏倭是即琉

球轉聲也琉球又作流求通或作瑠求

元作流武備志等書謹按元史所
故事繁擾謂瑠求者疑臺灣地也雖然

和紀毛沙

字和見沙三字並短呼內見即臺

灣是也夏國呼他功沙可濁呼字並短

稍濁呼竊按是地稱他功沙可濁呼字並短

所呼其後未假借漢字作太意袁者蓋內字

作臺灣明改呼東寧成功以之稱寬都作太土可並

鄭經復元曆元既知是地漸在以前數通後子灣人

我蓋在元曆元既知是地漸在以前數通後子灣人

平琵琶法師支那既知是地漸在以前數通後子灣人

然初皆斥之呼小琉球地漸在以前數通後子灣人

志等書典今世府志等書縣志

爾哥尼亞亞稱短呼即呂宋是也中甚小在產海

黃金以故亦富厚武備志錄洪武五

是題加牙影延焉恐非是

以諾可斯路正哥呼意

班巖是巴加是那共恐非是

瑪你刺漫截刺恐非是或云

意刺其斯
Shao
氏都並濁短呼都信企私刺斯都企私
島氏即語辭偷刺都信企私刺斯都企私
偷盜總譯曰強盜島世刺地全國直
以譯言曰強盜島世刺地全國直
Jequia
梨社外轉翠短呼呼
何栗都字共短呼
Spana
沙私半何栗都字共短呼

假西兒斯
Locon
奮作瑪泥見訝所云
舊作瑪泥見訝所云
羅區工
Panama
巴巴烟烟世等處為呂宋海公島嶼者共
長是恐非烟烟世等處為呂宋海公島嶼者共
呼黃金
Cadrona
刺都信企私刺斯都企私

瑪你爾假
瑪你爾假

Pulloverian

Che mose

布路喜郎 呼路喜郎 短布路喜郎 西毛西 並上下西字

是等島嶼總名意刺斯氏刺都侶企

私替查西洋諸國籍往載西土商

由是惟於地侵土番盜方物之國

以偷盜名蓋能盜者指所盜之地以及

名恐非是島之最過焉。本古人以

党臺亞 他作 Sandavia 党太影

Mindano

茗打椰呼下獨他作 Mindanao 茗打那倭

世云墨他舊作茗答開

樹恐非是舊作茗答開

Raracoo

巴刺哥亞 刺哥亞 轉並短呼 他作 Raragoo 巴

兒伍亞 兒伍亞 轉並短呼 他作 Raragoo 巴

巴刺伍 巴刺伍 轉並短呼 他作 Raragoo 巴

聲 刺伍鳥 倭恐非是 舊作麻老央轉

Mo luccca

莫爾假稱急又名

舊作馬路古

宜路路字稍短

Stannada

他兒拿他轉他稍短呼見又云 Jernate

氏兒拿氏短呼是即在莫爾假迤西

小嶼也

Le zcam

勢楠楠轉舊作巴布亞私然未審是非

本地古人在此島迤南小嶼也又以武魯為安貝那者亦非是武魯即在安貝那西

Co labes

西禮迷私稍短呼舊作食力百私

Ma cassal

馬渴沙兒馬沙並短呼

Coroita Lab

伍侶鳥打刺倭伍侶鳥刺倭

Limote

地睦兒舊作地木按兒字脫漏

Floris

弗路力私力轉他作弗路礼私

Cambara

龕華發又云 Cimbara

古莫華發

作皮馬

Borneo

何兒企伏稍短企並即淳泥是也舊作波爾

匿河淳泥國居海中本屬闍婆有地十

四州洪武四年其國王馬合謨沙遣使

以金表銀箋貢方物明會典

Amislaro 夏衣 會典

敢是亞路 稍是短路 呼並 馬兒都 都馬短呼 呼

Yamata 武中本 函閣 葵首 此十

何兒瑪打 稍何打並 呼並 彩長少 普亦 呼

Siccadamo

水加他那 稍水加那 並

Caluro

加布路 呼布濁

呼カビエロー 訖リ

Suimador 呼カビエロー 訖リ

蘇馬答刺 刺蘇答並 短呼 呼即古名大波巴那

國興地 又作蘇門答刺 或作須文達那

作沙馬大臘 明會典象胥錄等書 此世

異名者恐非是 仙勞冷祖島為此地

胥錄或曰漢條 支唐波斯 中書又象

大食即其地 亦非是 其地

Accem 呼カビエロー 訖リ

押計 稍短呼 巴參 石短呼 並

花 他刺 呼

Sallebor
撒禮何兒
轉何濁
舌呼兒

Dampuy

覃肥
稍濁呼肥

呼
呼
呼

Palimpon

巴淋半

皮刺
刺刺
刺刺

Pala

或曰又曰

Jaria

擾華
短呼
即瓜哇
是也
古名
閣婆
又曰

訶陵曰蒲家龍國曰咬啣吧又曰
吧瓜哇即古閣婆有東西二王洪武
金葉貢方物典會又刺瓜哇一蒲遣使
龍志備又曰唐日訶陵宋號閣婆錄家
地全常怒禪師傳遂至海濱附船南
往訶陵國從此附船往未羅瑜國
往隆法師仁南遊于交趾鼓船鯨
到訶陵國上麻刺加國之椰船
啣吧椰刺加國之椰船
毛番由此地多椰子故以名國椰
本毛番由此地多椰子故以名國椰

Batavia of Jacatra

花打喜亞
倭巫
熱假
他刺
倭花
巫濁
假短
他呼

四字俱短呼刺轉舌呼
 總訣云花打喜要又名熱假他刺
 又熱假他刺又
 四字
 總訣
 云花
 打刺
 轉舌
 呼
 名熱
 假他
 刺

Chara boy

沙刺梅
 舌刺呼轉

Jor tam

藥兒
 舌見呼轉

Bantam

蠻淡
 板又丹作

Jappa

影巴刺
 刺巴稍短呼

Ma Taran

麻氏浪
 轉氏短呼浪

Bantam

蠻淡
 板又丹作

Holladia Tora

和蘭得亞
 那花和急呼

An Tom - Pan Siemens - land

安乃你
 罕一題
 浪都都題
 短少呼引呼

Felandiamora

西浪地亞
 那花地濁

Waterpleaer

哇都兒布刺子
 兒都轉
 舌短呼

略載其梗槩而餘不能悉記以下

洲亦準之

亞細亞洲如見知斯翁禡都測論中

故不敢再焉

Regnum - Sinu

列故奴母支那即漢土

是也列故奴母支那字並短呼即漢土

那乃酋長所是梵上之稱總云酋長

作脂難作旃丹作振且作震且作真丹

皆是一種梵名之轉聲也西域記慈恩

此國人多所思惟計作故名之

北京 Peking

南京 Nanking 即今江南

山東 Kan Tung

山西 Kansu

河南

Kanan

陝西 Kansu 即今本省

吳

Chekiam

浙江

寧波府定海縣所轄舟山所是也

舟山 即今本省

Ceison

Kiangsi

江西

Asuani

湖廣 明今西南

Fokling

福建

皆長... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

Puan ting

廣東

Macao

馬假伏 稍短呼即本

省廣州府所領香山縣是也
 按是地
 自西土諸
 番入貢之便路故番船集於此矣
 老呼假伏者蓋諸番所名又本地古
 亞馬港皆是馬加哇又馬辣記香
 作香山所或作香山澳作香
 澳作濠鏡澳山清會典等書

Hainan

海南 即本省瓊州府所領
 海南衛

是也他作 *Aynam* 愛那毋稍短呼
○竊按歐羅吧人以
瓊州地總呼海南

Guangxi *Guizhou*

廣西 廣西 *Guizhou* 廣西

Yunnan *Laos*

雲南 臘乎並 *Laos* 稍短呼即本

省所領老撾是也周越裳氏地漢哀本
牢俗所謂搗家地明時立老撾軍民

宣慰使司 廣輿記象胥錄大學衍義

廣如後漢書西南夷列傳所記世以
之作羅烏以為摩羯陀國所屬恐非
是

貴州 *Guizhou*

右支那十五省名乃沿明世之所開

設也然原圖漏其二三省名故今以

他圖補注 支那各處對注右側夏

字皆從番字讀法注之

India 即天竺是也
印度亞 即天竺是也
印度亞 即天竺是也
印度亞 即天竺是也

本支限十五首公此即世之放開

印度私黨 度濁短呼即同上也竊按以是

二名統領竺土各州猶如舊已為五以

統之者考舊者西地佛書所說者是也竊參

列與印帝亞所領其地印私黨所領

最難取其正原國亦復然各互糾紛而

下亞刺未正等國亦同之以是故在各州

Magmi Magolis Impression

禡故你麻卧哩斯 淫伯淋麻哩斯

短呼俱是即無云竺土經界之別總謂

麻卧哩斯猶與佛書已總之謂梵土又

謂婆羅門國者同廣大大淫伯淋都此云

哩斯乃王者總云大國也印度又曰

印毒曰賢豆曰捐毒曰身毒 篤音乾曰天

竺曰印特伽天竺通典西使記等書云

身毒或曰賢豆今從正音宜云印度印

度之人隨地稱國殊方異俗遙攀統名印

多語其牙美謂之印度聖賢繼軌導凡

御物如月照臨由是義故謂之印度
須往印特伽國彼地多暑十月當此
月親師容自至彼恐銷融也註印特伽
謂印度也書所如境畏乃西域記通
典通志等書東述者然西域記通
三垂大刺者東述者然西域記通
海印刺者東述者然西域記通
是也海印刺者東述者然西域記通

東京 即交趾是也交趾或曰交又

曰南交曰交州曰象郡曰日南曰交

南曰廣南曰安南 尚書國史輿地志

記等書是地本名交其曰交趾者後
世增益之輿籍按是地支那秦時為
支那所領也然明明宣德中遂棄焉事
詳大那學衍義補明紀等書而地素
不受支那之正他往往將是別為二
朔別立紀元

以呼之其東曰東京西南曰 Cochin

Shinn 孤城是拿又曰 *Canchin*

Shinn 玕城是拿或曰屈正智那孤

城玕城屈正並皆交趾轉聲是拿乃

支那也智那亦支那轉訛西洋人知

是地姑屬支那故以之稱之

Paracelen

巴刺西爾
刺轉
再並短舌呼西世所謂萬里灘

即 是 又 曰 萬 里 長 堤 千 里 石 塘 在 崖

里 外 相 似 此 石 比 海 水 特 不 能 入 出 矣

海 船 必 建 避 而 行 一 墮 即 不 能 入 矣

萬 里 長 堤 出 其 南 波 流 其 急 舟 入 矣

溜 中 未 有 堤 能 脫 者 番 船 久 慣 自 能 避

無 虞 風 汛 亦 錄 東 日 來 京 西 南 日

亦 界 越 也 又 曰 占 城 轉 聲 也 占 城 波 是 地

尋 巴 郎 占 城 轉 聲 也 占 城 波 是 地

又 作 臨 邑 唐 書 通 志 佛 書 所 謂 摩 訶

瞻 波 國 是 也 林 邑 古 越 裳 日 南 郡 象

乘 船 又 曰 驢 列 正 步 行 可 半 月 若

是 臨 邑 此 國 多 是 正 量 少 兼 有 部 南

云 林 邑 曰 次 東 有 摩 訶 瞻 波 國 即 此

之 銅 柱 息 上 景 而 歸 唐 僧 苦 適 馬 接

乃 至 次 東 極 至 臨 邑 國 僧 悉 極 導 三

寶 多 有 持 戒 之 人 臨 邑 國 僧 悉 極 導 三

甘 何 智 亞 郎 東 埔 塞 是 也 或 曰 真 臘

Cam Bedia

亦曰占臘曰甘字智曰激浦只曰蒲

甘曰補南曰跋南曰扶南曰拈茂埔東

塞或曰真臘或稱占臘其國自稱曰

甘字智曰真臘又浦只蓋亦甘字智之稱

音也真臘風又東埔塞古名補南

補南即塞扶南按臨邑西南一月至南

屬國在舊云扶南南其王質多斯那兼

扶南有之姓利南氏乃至或云蒲

甘國錄胥真臘一曰拈茂唐書蒲

斜シ母ム短呼ハ稍シ即暹羅是也或曰赤土曰

婆羅剎與羅地全圖按暹羅本海南暹

亦曰暹別種也象胥其事廣如瀛涯

又曰暹別種也象胥其事廣如瀛涯

勝覽等述

書勝覽等述

皮禮引呼古即必昆兒是也又曰Perey

張一百三十三度大

Perey

莫兒

兒

古見呼轉或作

Moro

莫羅回竊按在此

暹羅西而暹羅附庸我經度一百三十

是莫也所暹羅之巨船來朝此土者

悉皆以六坤稱哩位兒是地國恐非

或大強緯度八度八度半六坤又作六崑

作六甲莫兒至此原圖漏焉然世之

所能知也故以他圖補注之

Pa Tane

把打企短把呼企並即太泥是也本地故老

呼暹羅所呼把打企及把堂乃西屬國

測奇緯度皆本或日他昔在彼地所考

堂私又作 rotakap 把打拿

馮辣加短福稍即滿刺加是也滿刺加又

滿喇或曰麻六甲亦曰五嶼曰哥羅

富沙輿地全圖泉一國者蓋是地一名佛書所云末羅瑜
 影在表南二佛誓其國夏至立佛誓又
 遂至海濱附尺五寸書常慙法師表
 天附船往高末羅瑜南征往訶陵國從師
 尸利僧法高末羅洲停津法師傳汎此國
 習焚佛書折末羅遊多師載解崑崙月餘
 國是也書上同末羅遊多師載解崑崙月餘
 至八月也中歸以奎測影亦爾縮不利盈日
 人過頭上無如春就日爾縮不利盈日
 並皆無影者惟今蓋是在禡中再加
 一加屬南濱之島測定者是在禡中再加
 一屬南濱之島測定者是在禡中再加

Malaise 禡刺野 又作 Malais 禡刺
 搖私短

Peger 伯牛 舊作芭牛
 呼ハキウ訛

Martaban 馬兒答蠻 見轉舌呼下同 他作 Mar

Lacoon 茶竊按原圖一及割之為一國
 馬兒答發旺舊作馬兒大

Araccon

亞刺坎呼刺轉同他作

舊作亞臘敢

Araccon 亞刺坎

Bengala

佰牙刺 卽榜葛刺是也榜葛刺古忻

都列卽東印度也全與地佛書所云耽

作耽又摩栗底國蓋是地自此迤西行

六十餘驛至詔納樸兒國卽是古所

云摩揭陀國也是國雖原圖漏焉舊

圖旣載之故因附注於下以為耽摩

栗底國考據耽摩栗底或作多摩

天有五印度國榜葛刺卽東印度也

從翠藍島入察地港更小舟行五百

里至沼納見港又作鎮有西城

池市聚始道陸抵國可橫又作鎮有五里

通金別室國曰詔納橫見一乃五里

得道之榜葛刺迤西古一乃五里

度之國中乃秋迤西古一乃五里

佛國又曰樂納橫見在道古一乃五里

刺國典明公樂納橫見在道古一乃五里

薩有金剛座上究地際下界中瞻部

處正理論摩揭陀國也

也方提立船摩里大爛國傳震金步極大樹中竭
帶南建及底歸立驚寺陀既過動剛賢金地垣印提
依海耽那國唐底峰乃次入南獨座劫輪俱正度皆
摩爛即之國竹至向江印無焉千上起中境訖
多立陀東處有苑此金口度傾證佛侵披有也
摩底可印玄六皆寺剛乃覆搖聖座地三金周
梨國六度達七在則座至屆慈道之際千剛五
帝即十南律十城南又詣東恩域所而金大座千
國東餘思師馭傍望曰中天似亦入剛千昔餘
即印馭也傳即乃王室印往大曰金所世賢里
是度高去遂是至城利度耽乘道剛成界劫乃
海海僧上莫連海東德那先摩燈場定周之初至
口之傳求訶耽口向三爛到立禪大故百中成菩
頌口法善摩昇耽十陀那底師地曰餘下典提

沙答堪堪沙短呼
Ratagom

假那刺企刺假那並短呼
Canazome

謨安太
Mihantaj

亞華
Apra



哥魯漫得爾。哥是再地。今短呼得濁短呼。

Coromandel

哥魯母下。魯轉。母舌短短呼。

Corom

右水各處即印皮內以淡青所綠之地

宿海地即是也。是湖說廣如河原志。及

素城臘古私

未詳審素城為何言。臘

Coring Rawie

胡人本語非西。洋之刺所呼。即舊日

伽湖。本語非西。洋之刺所呼。即舊日

刺見胡人。本語非西。洋之刺所呼。即舊日

說廣如。譯言無。婆沙智度。俱舍。刺。何。見

支那。譯言無。婆沙智度。俱舍。刺。何。見

達池。是也。阿釋。達池。正云。佛書。何。同

私此。云湖。亦詳。私。賣。之。稍。短。呼。下。同

斜。賣。臘。古。私。賣。之。稍。短。呼。下。同

流。出。流。入。東。印。度。便。入。南。海。音。義。嚴。象。喻。不。恒

恒。世。為。不。喻。復。次。餘。河。以。恒。字。恒。為。轉。此。恒

大。四。遠。諸。人。經。書。皆。以。恒。河。為。福。德

Jegapatom 企訝巴且 他作 *Jegapatom* 企訝

巴淡竊替查西洋所刻印度地圖自

且稱之者甚多 曰 *massilipatan*

而今攀其一 曰 *Tegamam*

馬私里巴且 字並短呼 曰 *Jegamam*

patan 得牙那 且得那 字並短呼

曰 *Bimilipatan* 未米里巴且 字並短呼

字並短呼 曰 *Wesingapatam* 那兒城牙

巴且 我那短呼 見轉舌呼 下同 竊按

其送來本地後所存撫癸遣巴巴且者
未嘗詳審於是居多者為何巴且

Wesingapatam *Bisnagar*

那兒城牙 未私那兒 轉舌短呼見

poa

亞 是地有波兒都

Malabal

秣刺襪兒 見轉舌短呼 是地既居南印

度之海際是名載原之國故焉然他國

地全圖云摩梨山在此佛書作摩利

耶山又作摩羅耶山山作

由是觀之玄莽所云秣羅矩吒國即

是地秣羅矩吒或作秣羅作摩利伽

南際海濱境也秣羅矩吒國即瞻部最

摩利伽羅那國南界而印度境既居海

名音義又曰是地南界而印度境既居海

右各處乃印度內以淡黃所綵之地

Calecote

加禮哥得稍短呼得並

Orisa

倭哩撒呼哩轉舌呼

Paroad

伐刺孛度竊按西域記以之既為西印

悉移居東印度境雖然莽之輟已圖

乃至於此則以莽說為得焉復按舊圖

莽所云伐刺那地是也

gossa

卧兒魯並轉舌呼見魯長少

Pitani

點點西少卧兒見轉舌呼

Janovai

Kakake

他那是短呼是並加假計私稍短呼私並

Wacalcanal

也私加爾環都也和加爾濁呼四字

Sirinacker

是哩那計兒轉是計短呼那急呼並

Balck

下爾古下濁並短呼爾

Mil tan

母爾且稍短呼俱武古加爾武古短呼

gusirota

牛私刺得轉舌急呼下同他作 gusirota

庫西刺得呼濁舊作格作刺得

Wail

周爾 周濁呼

Wail

魯鳴禮漫都兒濁呼見轉舌呼都

Wagiete

刺古也得刺短呼古也
二字連合呼

只倭倭短呼舊作錫
世和 *Wagiete*

舊作錫狼又作錫蘭山國古

名狼牙須國高明會典象胥錄。番語
瀛即古狼牙須國為錫蘭因名或曰
瀛涯勝覽象胥錄等書中所述如

Wagiete

哥魯毋火呼濁呼並短

Candicia
Jappanayra town
短呼那俱
悅華那巴且短呼那俱
呼得濁

Insula - Malakia

印私刺馬爾題華馬再華俱稍短

名詠云島嶼按是眾嶼馬爾各題華其此

伯兒是亞轉舌呼見世所謂華爾救國即

是也舊作巴爾齊亞玄莽斥之云波刺

斯波刺斯或曰波斯又曰條支曰大食

曰天方曰天堂曰筠冲曰亞俱羅波斯

宿利城在祖蜜西古條支國都

其先有波斯號匿王者孫以波斯父字為

氏因為國神銀帶佩銀刀不飲酒拳樂

有禮堂容教百人率七記曰王高坐為下

說曰云其土無環行記曰五大食一各

亞肉作齊禁銀帶佩銀刀不飲酒拳樂

樂人人相爭者不帶佩銀刀不飲酒拳樂

法曰云夕日王出郭之登高座為眾說

地所生無物不有郭之登高座為眾說

國腹其小脚腕長善者自忽魯漢斯四方

十畫夜至其國乃西海盡處或云從
 路抵支那皆如西國用回曆
 層次高上如塔初生并天為市建
 以禮有馬高天名揚慎呼稱揚
 然期言最大號難故為尺成都慎
 即矣鐵名波改移欠海外諸國
 之附見素舊業曰波斯刺移是
 次移置素舊業曰波斯刺移是
 方客私堂進東河迤西畧北也
 見容私堂進東河迤西畧北也
 補以天方非是皆共大有說畧焉
 亞兒淡短見呼轉舌刺私都都刺並短呼
 亞兒淡短見呼轉舌刺私都都刺並短呼

Mathran

Root

Rhoemir

Devistan

古謨私稍謨私並
 呼クウニス訛

得里私堂得濁呼里
 轉舌呼

Chorasan
 哥刺山哥短呼刺轉
 哥刺沙舌呼同刺轉
 他作 Chorasa

Ayack
 愛辣古辣轉舌呼
 短呼並下同古

Yeraak
 野意辣古短野呼
 短呼

長直
 短直

112

Chohassan
哥亞山呼哥短

Sigistan
是宜私且是短宜私

Chiristan

古是私且並古是呼私

France

華兒私見轉舌並呼短呼

Camata

加馬打稍加短呼並

Angua

安牛亞短呼稍

isiat
是刺所同刺轉舌呼下

darabegit

打刺迷牙都呼牙急

Mengion

墨母宜安短呼宜並

Patanie

巴打泥私稍短呼

Rherman
溪兒曼
轉溪短呼見
舊作溪爾曼

窩兒謨斯見轉舌呼短呼
舊作忽魯謨斯

或作忽魯謨斯又作忽魯毋思
書。忽魯謨斯國濱海倚山通諸國
貨故。國人多殷富無甚窘者有則眾
濟之。自古崇回々北海行可二十五
日。至其國。崇回々北海行可二十五
齊戒誠敬。風俗淳厚。人肌膚白哲。豐
偉衣冠。嚴肅。瀛州。覽竊按西諸地。罔
悉以之。刺未亞。國者。又有以之。置本。列
置亞刺未亞。國者。又有以之。置本。列

然一處復置亞刺未亞。並有說略之者

Mare de India

馬禮得沙刺呼馬禮此云海得
都語此云賦總譯曰鹹海舊所云北
高海或曰地中海支那國史及佛書

斥之云西海亦云西垂海即其北高
周凡一千里此水甚浩蕩不通大海
故疑為海。然其水亦周數千里
海。奧地。中。其水亦周數千里
緝。或。全。地。中。其水亦周數千里
印。或。全。地。中。其水亦周數千里
於。西。天。以。外。諸。國。其。列。置。殊。多。錯。誤

者國地是意是奴
 斯以所港日奴私
 其之稱名是私
 本稱元則斯武紅
 地默名歐伯西毛
 之生則羅兒
 所了莫吧是此
 稱海嘗所亞譯
 名那海所呼國云
 亦潤字見也深水
 不文即然而港面
 可知者地其按云
 意全本如巷

是奴私
 白兒
 是古斯
 字奴私
 稍伯
 短古
 呼斯
 五

者國雖者
 斯以是
 其本然支
 地之則那
 之生莫吧
 所了莫吧
 稱海嘗所
 名那海所
 亦潤字見
 不文即然
 可知者地
 意全本如

者國雖者
 斯以是
 其本然支
 地之則那
 之生莫吧
 所了莫吧
 稱海嘗所
 名那海所
 亦潤字見
 不文即然
 可知者地
 意全本如

亞刺未亞
 短刺轉
 呼以舌
 下呼末
 並同稍
 舊作曷
 刺比亞

亞刺未亞
 短刺轉
 呼以舌
 下呼末
 並同稍
 舊作曷
 刺比亞

亞刺未亞
 得西兒他
 並短呼
 兒轉舌

亞刺未亞
 得西兒他
 並短呼
 兒轉舌

加武假
 呼武短
 呼武短
 呼武短

加武假
 呼武短
 呼武短
 呼武短

亞刺未亞
 伯得禮亞
 轉舌短
 呼禮

亞刺未亞
 伯得禮亞
 轉舌短
 呼禮

Shoban
大華兒
見華
轉稍
舌短
呼呼

哥兒
舌見
呼轉

是布
都是
稍是
短都
呼共
舊作
妻畢

Partack
華兒
打古
見華
轉打
舌古
短並
呼短
舊呼
作法
謹力
達

Mecklat
墨假
刺富
並以
短上
呼四
字

Sheme
得墨
古里
亞都
呼古
亞都
急並
呼短

Mar-Rubrim

馬禮
兒武
兒武
謨武
謨並
短呼
呼禮
及

洋紅
加海
里之
和上
見者
泥西
亞乃
海對
水東
亦錦
大也
類而
此如
是東

Ugine chin
鳥貴城ウグイシ鳥ウ稍短シ呼ヒ貴初合キシ
唇後開唇弄舌呼

Jantania - Derestaria
他兒打哩亞タニ氏シ西兒他シ濁短呼見シ
轉舌呼他短呼

Koosakri - Jantaria
加撒其カサ他兒打哩タニ短加呼其並カ

Jordan
私山シ呼ヒ訛シ
哥刺古斯カ餘刺轉カ短舌呼カ

Carjak
假禮意悅カ加カ礼意カ餘並稍短合轉カ

Caragan
假刺岳カ轉假短呼刺カ

Pagan da
巴珩沙バ稍短呼並バ河加刺轉バ濁短呼刺バ

Carar
加私假兒カ餘並轉短舌呼カ

Jamarachand

沙馬兒罕都馬都並短呼舊作撒馬兒

罕故云蜀賓記蜀音又云漕曹作玄奘

所謂劫布咀那國

北漢時蜀賓國也

國也唐書又曰從此

分註唐言曹國此

古蜀賓國象會錄具

所書說

土兒西私堂呼見轉舌短呼舊作土兒

Jirshetan

素除客私堂

Xantam

參堂

Chalccam

加爾堪稍加角並

Rapkei

Jamfir

葛富奇

番

Rokotan

Ralakotan

哥哥丹稍哥短呼並加刺可堂短加刺並

Jagathay

沙牙他意沙牙並短呼意舊作察瓦泰

禮倭東禮倭稍短呼即是遼東轉聲也竊按

故東胡之地也而周時燕既略此以

屬巴馬為置吏築彰塞後秦使蒙此以

築長城亦據之為及虫然是素非支恬

Soria

素利亞短呼舊作西利亞舊作土兒

Natalia

拿刀里亞稍短呼舊作那多里亞

Sinopi Satalia

是那皮短呼沙打里亞稍短呼

Chingtanda

是哩斯堂大並短呼斯大

Uog Jooeat

各泥多渴都短呼並

Aemenia

亞兒默泥亞アールノイニヤ兒轉ニ稍短シ呼フ舊作キョウサク亞爾默泥亞アルニイニヤ

Conditio

哥刺知私刺哥カクチシカクカ轉ニ並短呼シ

Overrun

野兒西兒エールニール兒野ニ字轉シ並短呼シ

Modus

毛爾モール短呼シ並

Alexandretta

亞禮奇山得アレキサンダ禮打レダ短呼シ下禮轉シ急呼シ

Cypria

世布兒私セブルシ見轉シ並短呼シ紅毛書云此島即

亞細亞所屬也而有主理焉

Judeia

柔得亞ジュデア短呼シ濁舊作キョウダ如德亞カドヤ

Damascus

大馬私古斯呼タマスチヌス訛並以上短呼字

Erindalen

野兒沙連呼エリサリシ訛野呼沙濁呼兒轉

Sirpali

得里步利里轉舌短呼

gaga

牙沙呼沙短

以上諸地乃亞細亞洲所屬也

Commanira

哥母馬泥亞哥母馬並稍短呼。竊按此

新舊地圖皆已中間有墨何的湖而
之界自地此圖以東即西歐羅亞細
圖之則以亞兒墨泥亞既乃為亞細
亞屬也西界而猶此原圖則為歐羅
界所屬也重出歐羅吧之圖下

Naka-Jemla

那花西母臘舊作新增白臘

